

海外だより

△中国人民にとって一九七六年は記憶すべき年であった。毛沢東の死について冷静に対応する中国の新青年は、八地下報V（香港）で次ぎのように判定している。現在毛沢東は「身を挺して尽力し疲れ果てて」死んだ。人民の社会主義への願望と官僚階級の利益は衝突する。この二潮流は彼の死によって結束するどころか、互いに反目し、更に闘争は白熱化するのだ。：四九年前後の毛沢東は実にバクーニンについて形容されたものと同じだ。「革命の成功前夜の彼は一個の革命者であった。革命成功の次ぎの日は反革命者に成ったのである」

△エスポワール（仏）9/26日号の八毛の死Vでは「：彼（毛）と共にわが時代の世界的人物の最後の一人が消えた。われわれは毛が中国で実行している思想を共有するものではない。しかし全アジアひいては世界にとっての中国革命の重要性を否定する者はいない。毛の誤謬が何人であろうと、また中国人民に權威主義の色合いのものを与えたとしても誰も認めなければならぬ現実がある。毛は戦争屋の軍閥から人民を解放し、生活の組織化への道をみつけ、世襲財産を廃して全人民が食べられるようにした。人にどんな意見があろうとこれは重要だ。中国人民には幾らかのクロボトキン主義の影響がある。クロボトキンは何度も訳されたし、インテリだけでなく民衆にも知られている。中国のコミューンは自発的で、農業の片側にそのコミューニティの発展に必要なだけの仕

事場や工場を建設しようとする。このクロボトキンの思想は、気質として働き者で独立心に富む中国人、生への意志を常にもっている中国人にコミューンを創設する実際的な図式を提供している。」

△フリダム紙10/23号八中国の謎Vでは、毛沢東は「結局半プロレタリアートでしかなく、プチブルの親密な友人であったが、注意深くその右派的傾向を警戒していた。そして中農は有益な同盟者だが、八貧農が中農に勝利しなければならぬVと教え、一九五〇年には八帝国主義、封建主義、官僚資本主義に味方する者は誰にしる反革命だ。言葉だけは革命的民衆に味方しながら、行動で別なことをする者は、言論だけの革命家だ。行動と共に言葉でも革命的民衆に味方する者が本当の意味での革命家だ。Vと教えた。毛は死んだ。今や神話が始まるうとしている。もし権力闘争が起きるなら、新しい革命をみることになるだろうし、それは大いに有り得ることだ。」

△人民日報は党の機関誌だ。最近紙面の扱いが変り八読者通信Vが設けられた。11/9日付から訳出する。

「俺達は七〇才前後の老人だ。旧中国を回想すると、毎年毎月荒廃から逃げ回って、めしを食わねばならなかった。毎日毎日死に直面していた。（だから）非常に待ち望んでいたんだ。太陽のような人物がでてくるのを望んでいたんだ。偉大な領袖毛主席のおかげで、共產党が俺達の翻身（ファンシェン）自己変革」を領導し、解放して呉れた。土地を分けて呉れ、家屋を分けて呉れ、毎年食って余り、着て余り、食べ物の余りがあるようにな

った。年令が大きくなると、人民公社が俺達を幸福院（老人ホーム）に入らせて呉れて、幸福な晩年につかせて呉れている。老人は娘と共にこの思情に感謝し、毛主席を救星とし、一度ならず俺達は毛主席万才を高唱した。今年九月九日、あの親しい老人家、毛主席は俺達から離れてしまった。この消息がもたらされると、俺達はしばらく声を放って泣き、めしも食えなかった。眠れずに心が曇り、気がかりだった。毛主席が自分も含めて指示した光明大道を指導して行ける人はいらぬのだろうか？俺達の気がかりはそれだ。資本主義がわしらの国にまた戻って来るのではないだろうか？貧農中農はまた二度目の苦勞、二度目の難儀を受けないだろうか？俺達の幸福な生活はまたなくなるのではないだろうか？俺達が大変心配していた正にその時、北京から大いに嬉しい知らせが来た。華国鋒同志が党中央主席と中央军委主席になったのだ。わしらの党、わしらの軍隊、わしらの国家と人民は自分達の領袖と統帥をまた持ったのだ。（これで）俺達の曇った心ははれて落着いた。」（発信・山東汶上県南旺公社幸福院）

▲最後に晩年の毛沢東はどんな考えをもっていたかを覗いて知る資料を訳出しておこう。一九七三年当時のフランス大統領ボンビドゥと会見した際の談話抄録がサンディタイムズ10月24日号にでている。

ボ「（ドイツの）電撃作戦なんかは貴方の野心にそぐわないでしょうね。あれは初めはいいがあとが盲く行きません。しかしヒットラーを除去できたのはいいことです。」

「っています。」

毛「（不同意の手を振って）同意できません。遅かれ早かれ戦争があります。最良のプランはこの戦争の偶発性を装うことです。その後で（戦争の後）平和の可能性が望めます。われわれもそうなれば警戒を解くでしょう。」

ボ「貴方は嘗って八銃を捨てるために、銃を執れVとおっしゃった。」

毛「私はフランスの友人達とは多く逢いました。アンドレ・マルローはどうしていますか、彼は議会が嫌いだったが、議会も彼を好いていませんね。」

ボ「マルローは貴方との会見を沢山書いていますよ。」

毛「貴方の問題はフランス共産党ですね。われわれは彼等が好きじゃない。彼等は改良主義者です。」

ボ「よくソビエト通信から援用します。私が中国を訪問したのもそれと関係がありません。」（この後毛はニクソンのウォーターゲート事件に言及し何故騒ぐのか判らないと言う。またボンビドゥが米国の孤立化への傾向を教えたのに対し、信じられない二度の世界大戦で米国人は遅れて戦争に参加したが、結局実際的には孤立者でなかったVと断定する。）

毛「フランスでは第四共和制下で毎年政府が変わっていますね。」

ボ「フランス人にとっても誰が議会の大統領なのか知るのにはむづかしいですよ。」

毛「ナポレオンの方法が最善だった。彼は国民議会を解

毛「それは個人の意志によるのではなく、状況のおかげですよ。私は教育のある人間じゃない。例えば外国語を知らないのですから。」

ボ「でも中国人を知っていらっしゃる。」

毛「少しはね。だが完全にはない。年をとりました。それにどちらかといえば政治（administration）にかかわってききました。」

ボ「そこでも多くの事をやって来られましたね。」

毛「そうです。20年闘ったのです。私の精力は燃えつきてしまった。私は小学校の教師でした。」

ボ「私もそうですよ。」

毛「いや貴方は教授だった。私を戦場に駆り立てたのは状況だったのです。戦争をしなければならなかった。われわれは20年戦争をした。その後、朝鮮で米国人と戦った。だが蔣介石とはもっと長く闘いました。しかもその間に日本の侵入軍と8年に亘って戦ったのです。中国に侵入した外国人は困難に遭ったのです。というのは中国人は戦争では非常に力倆がありますからね。これからのわれわれは二大勢力に直面しなければならぬ。私は二大勢力にサンドウィッチされたのが今の世界だとたえています。」

ボ「それにしても流血してはいけません……」

毛「いや（流血はあるだろうの意）そのために準備すべきです。」

ボ「私は二大勢力の指導者に逢いましたが、彼等は平和的にやりたいと言っています。平和であるべき理由をも

散して、自分で政治をする人達も選んだからね。」

ボ「今日それを実行するのは困難でしょう。民衆は進歩したし、個人に彼等の信頼を置きたがらないのです。」

毛「過去の中国でも国民議会がありました。しかし代表に選ばれるためには沢山金がかかったものです。今の米国がそうでしょう。選挙に何百万ドルも使っている。」

ボ「フランスではもう少し節度があります。われわれは豊かじゃないし、富がよい相談相手ではないのです。それに金銭がわれわれの制度では重要な役割を果たしません。民衆は自分の代表を知っているんです。それに何よりも小さな国ですからね。中国とか米国では選出された人を全部知るだけでも大変でしょう。」

毛「大革命の時代とナポレオン治下の人口はどれくらいでしたか教えて下さい。」

ボ「当時はヨーロッパで最大でしたから（フランス人は）二五〇〇万から三〇〇〇万人でロシア人より多かった。しかし十九世紀では下降をたどったのです。」

毛「現在のフランスはどれ位ですか」

ボ「五五〇〇万です、貴方からみれば小さいでしょう」

毛「ではおたくの人口は英国と同じ位？英国がヨーロッパ社会に参加したのはいいことだ。」

ボ「そう。私もそう思います。英国をヨーロッパに近づかせるようにしているんです。ところでお訊ねしますが貴方の方の人口はどれ位の成長ですか。西欧では約一〇億に近いと聞いていますが。」

毛「そうね。正確な数字は知らない。八億ぐらいだろう

Sanshiro Ishikawa and I.

Since Sakae Osugi was killed by Japanese army men in the confusion of the Great Earthquake 1923, anarchist movement in Japan entered at a low ebb. After the end of the World War II there were small number of anarchists left in Japan. Every effort they tried to revive the anarchist movement as before was fruitless.

Among these people, there was Sanshiro Ishikawa who had ever cooperated with Shusui Kotoku to issue Heimin Shimbun, the socialist news paper. When Kotoku and his eleven comrades were sentenced to death on the charge of high treason, Ishikawa had been in prison prosecuted for a contravention of press law. Released from prison, he published his History of Socialist movement in Europe which he wrote in prison. Police pursued him to arrest, he fled and exiled to Europe in 1913 and came back to Japan in 1920.

His life in Japan after coming back from Europe, was nothing but a thorny path. Anarchist movement was delining and Japan found its way to militatism. He was a thinker and not a man of action. He wrote books and died in 1956. At this time, the anarchist movement in Japan was in the depth of decay.

It was in 1930 that I visited him for the first time to ask for instruction on anarchisme. He told me: "Anarchism is that is free from bias." I understood in these words that it is very difficult to be an anarchist but this was the starting point for an anarchist. He persuaded me to study the ancient history of Asia.

More than forty years from that time, I am still studying history. As Ishikawa was not a man of action, I am not an activist and as Ishikawa was an anarchist, I am also an anarchist.

I have organized a group of study meeting of anarchism in 1963, and began to publish Libertaire japonais in 1969. Young men came and left one after another and our group is still small but I think, we could hold a seat in Japan as anarchist against all the authoritarians.

Augustin S. MIURA

か。七億に達したかも知れない。人口調査ではいつでも中国人がふえているようなんだ。他方収穫量は少くなっている。どちらにしろ調査の数字が作られる例をあげよう。おじいさんが死んでも、特に農村地区では台帳ではまっ消しない。それに多くの人が住所を変える度に登録するんだが、以前住んでいた登録を消していないんだ。」「ボ「収穫に関して言えば、フランスの農民だって中国の農民と同じぐらいいるんですよ。いつだって収穫量を少なめにする傾向がある。」「毛「ここでは少くとも10にカットするんですよ。しかし私はそれを承知している。成すがまゝにしているんだ。彼等は実に15を隠している。だから公的収穫量はダウソンのんだ。しかしそこにも実際の穀物量がある訳です。だから私が地方の指導者に助言するのは、例えば農民が収穫を隠しても厳しくしてはならないと言うのです。介入すべきじゃないでしょう？同意しませんか？」「ボ「全く同感です。私も農民出身です。おじいさんは農夫でした。」「毛「われわれはフランスの歴史、とりわけフランス革命に興味を持っています。フランス大使はロベスピエールやナポレオンのようなアクセントで話しますね。」「ボ「ナポレオンはイタリア語のアクセントでした。」「毛「そうだ。それで彼は人に笑われたのです。ロベスピエールはちょっとした法律家だった。」「ボ「そう法定弁護士でした。ブルジョワでしたが思想はそうでなかった。フランス革命では大衆からでた人は極

く少いです。マラだって、極左派の人ですが、医者でした。あの時代は理念の爆発がありました。」「毛「そうですね。ダイナミックな時代でした。この時代にフランスの影響で、封建制度がヨーロッパから追い出されたのです。20年前、イエナン（延安）にいた頃、私はあるロシア人にナポレオンをどう思うかと訊ねました。彼は皇帝に敬意を表しましたよ。マルクスとエンゲルスも彼（ナポレオン）には好意を持っていました。」「ボ「そうですね。でもナポレオンはあいう壮大な計画に飛びこむという悪いことをしたので。」「毛「あれは英国に対する敵意からだっだし、それで封鎖政策をとったのでやむを得なかったのだ。（中略）」「毛「エジプト遠征ではナポレオンは三万人を引きつけて行った。あれは間違いだ。」「ボ「ナポレオンは東洋の神秘に屈したのです。それにアレキサンダー大王の夢でしたからね。」「毛「アレキサンダーは偉大じゃない。ペルシアまで行きたかっただけで、そこへ行けぬうちに死んだ。」「ボ「そうですね。33才でした。」「毛「ナポレオンは年上でしたね。」「ボ「そう52才で死にました。」「毛「彼はガンですか潰瘍ですか？」「ボ「潰瘍です。しかも悪性の。ナポレオンの支援者は英国人が毒殺したと言っています。」「

以上



Sanshiro Ishikawa et moi.

La mort de Sakae Osougui qui a été assassiné par l'armée japonaise en profitant de la confusion de grand tremblement de terre en 1923, était le commencement du déclin de mouvement anarchiste au Japon. Après la Guerre mondiale II, on ne trouvait qu'un petit nombre d'anarchistes survivants. Parmi eux, il y a Sanshiro Ishikawa qui avait été un camarade de Kotokou. Quand Kotokou et ses onze camarades ont été exécutés pour le crime de lèse-majesté, Ishikawa avait été dans la prison pour le délit de presse. Après libéré de la prison, il a publié l'Histoire du mouvement socialiste européen dont il avait écrit dans la prison. L'autorité le poursuivi pour arrêter. Il s'est exilé en Europe en 1913.

Il est rentré au Japon en 1920. Sa vie au Japon n'était pas dans le milieu favorable. Le mouvement anarchiste allait en descendant. Il n'était pas un homme d'action, mais il était un penseur, il s'était consacré à la rédaction des ouvrages. Il est mort en 1956.

C'était en 1930 que je l'ai visité chez soi pour recevoir l'enseignement sur l'anarchisme. Il m'a dit: "L'anarchisme, c'est ce qu'on a aucun parti pris". J'ai compris dans ces mots la difficulté à être un anarchiste, mais c'était le point de mon départ. Il a persuadé de me livrer à l'histoire ancien d'Asie.

Plus que quarant ans de là, j'en suis encore dans l'étude d'histoire. Comme Ishikawa n'était pas un activiste, je ne suis pas un activiste, mais comme Ishikawa était un anarchiste, Je suis aussi un anarchiste.

J'ai organisé un groupe de recherche anarchisme en 1963 et a fondé le Libertaire japonais en 1969. Le jeunes gens son venu un après l'autre. Notre groupe n'est pas grand mais je crois que notre idée anarchiste est déjà reconnue comme l'idée contre l'idée autoritaire au Japon.

Augustin S. MIURA

